

(仮称)

# 自然ふれあいの森

## ニュースレター 第08号

平成16年1月31日発行 発行：堺自然ふれあいの森委員会

### 堺自然ふれあいの森委員会報告

第21回／平成15年12月20日(土)

忘年会

第22回／平成16年1月25日(日)

体験イベント「さとやまと“友達”になろう」

平成15年の最後となる第21回堺ふれあいの森委員会は、午前の通常会議の後、午後からは、開拓班と林床班にそれぞれ分かれ、開拓班は、御陵前周辺の整備、草の集積と常緑樹の間伐を、林床班は、管理区域の清掃



と落ち葉かき、および1月に開催されるイベント時に使用する椎茸栽培用のコナラの間伐を行いました。夕方からは親睦を深めるための忘年会も用意されており、みなさん心なしか張り切った様子で作業に取り組んでいました。その忘年会では、一人ずつ「来年の抱負」や「森への思い」を発表しました。また寒い中、作業に熱中し、たっぷり汗を流したあ

とのビールは五臓六腑に染み渡り、ふれあいの森で忘年会を開催できる日を願いつつ、盛大な宴は閉会しました。

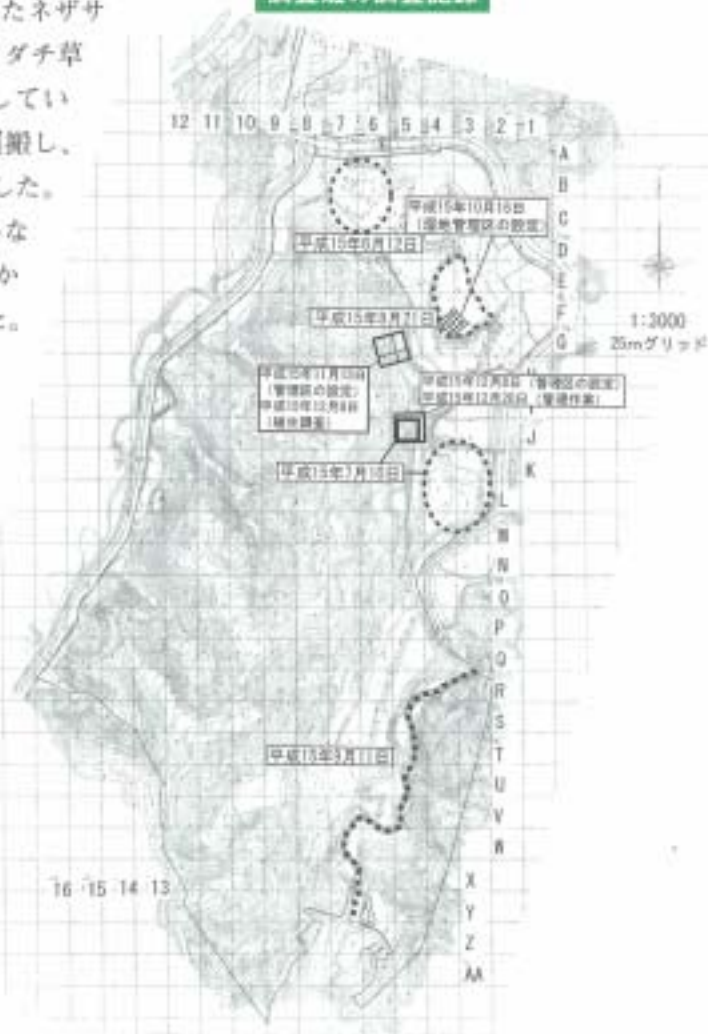


今年初となる第22回堺ふれあいの森委員会は、「さとやまと“友達”になろう」と銘打った体験イベントを開催しました。オープニングセレモニー（会のあいさつ、予定及び作業説明、注意事項、ラジオ体操など）の後、まれに見ぬ大雪の中、参加者50名全員が雪景色を楽しみながら汗を流し、食事班のみなさんが作ってくださったあたたかいけんちん汁を美味しく頂きました。開拓班は雪の降りしきる中、原田班長の号令により、刈取って集積されていたネザサやクズ、セイタカアワダチ草などを、事前に準備していた手作りの集積場に運搬し、農地跡の整理を行いました。大勢で作業するとこんなにもきれいになるのかと感心させられました。また椎茸班では、試験的に間伐したコナラを活用し、経験豊富な嶋田次長のアドバイスのもと、椎茸の菌を打ち込む作業を班ごとに行い、全員で体験しました。



中には工具の扱いに四苦八苦する方もいましたが、初めての椎茸の菌打ちの体験を楽しむことができました。

### 調査班の調査記録



# (仮称)自然ふれあいの森 体験イベント 「さとやまと“友達”になろう」

空気がきりりと透きとおる里山の朝一番。平成16年1月25日、体験イベント「さとやまと“友達”になろう」を開催しました。開始と同時に雪がちらつきはじめ、オープニングセレモニーの後、全員でラジオ体操。体を動かすうちに、自然と気持ちも改まり、身も心もシャキッと引き締まりました。雪が降りしきる中、それぞれの班に分かれ作業を開始。作業後にいただいた温かいけんちん汁は、冷えた身体にしみわたり、本当においしかったです。



## 開拓班



しだいに降り積もる雪の中、時折木々に積もる美しい景色を見ながら開拓班のメンバーは、御陵前に刈取って山積みになっていたネザサヤクス、セイタカアワダチ草などを、二箇所の集積場に運搬し、農地跡の整備を行いました。大勢で作業をしたので、見る見る片づきます。おかげで、御陵前にあった集積の山は見事になくなり、すっきりとした広場となりました。



## 椎茸班



椎茸の菌は1mぐらいに切られたホダ木に打ちますが、性質上、菌打ちさせた木に菌がまわってから茸が生えます。しかし、他の菌がつくと上手くいかないこともあり、木の切り口から他の菌が入らないようにまず両端に菌を打ちます。また、季節によっても適合する菌種があるらしく、意外とデリケート。初体験だという人も多く、貴重な体験が出来たと喜んでいました。



## 食事班



50名分のけんちん汁を作る食事班は、それぞれ持ち寄った野菜を切り、大きなお鍋で煮込みました。経験が豊富なお母さま方は、手際がバツグン。野菜の切り方から、味付けまで一つ一つ勉強になりました。コミュニケーションをとりながら、みんなで一つのモノを作り上げるという、一体感も生まれたのと同時に、笑顔で食べるみなさんの表情が印象的でした。



## 2004/1/25「さとやまと“友達”になろう」 イベントの感想

1.名前 2.班 3.今日のイベントの感想 4.けんちん汁の感想



1 古川和子さん 2 食事班  
3 椎茸の菌を生まれて初めて打てたことに、感動しました。一年半後が、楽しみです。次に繋がることを祈っています。すばらしい！  
4 おいしかった。最高！



1 森下義男さん 2 食事班  
3 寒い中でも、たくさんの参加者がいたことが、嬉しい。一つ残念なことは、一般人の参加がなかったことです。次回は、一般の方にももっと参加してほしいです。  
4 おいしかった。



1 飯尾寛久さん 2 椎茸班  
3 日頃やっていないことでしたから、楽しかった。(椎茸菌を打つなど) 秋語がたのしみです。  
4 寒い中、けんちん汁を食べたので、より、美味しくいただきました。



1 大西さん 2 食事班  
3 雪景色がきれいだった。椎茸菌がさすところから、椎茸が生えると思っていたけれど実は、椎茸菌を打った木のどこからでも生えてくる事に驚きました。  
4 おいしい！



1 坂東龍二さん 2 開拓班  
3 雪の中で作業する事が、あつたにないことなので非常にいい体験ができました。  
4 非常においしかった。薄味で体にいいですね。



1 平峰加奈子さん 2 食事班  
3 私は昨年引き継ぎ、食事班を担当したのですがお母さまがたの、手際の良さと、的確な判断のおかげで、けんちん汁がスムーズに料理されました。感謝の気持ちでいっぱいです。  
4 ほんとうに美味しかったです。



1 原田克史さん 2 開拓班  
3 雪が降った事がすばらしい！雪に囲まれました！  
4 あたりまえにおいしい！



1 児島俊子さん 2 椎茸班  
3 初めての経験だったので、寒さを感じないくらい、みんなで楽しく作業ができたことが、とても幸せでした。  
4 けんちん汁は、だしが出ていて真だくさんで、おいしかった。



1 中西正子さん 2 食事班  
3 今日のイベントが、雪の日にめぐまれてラッキー！みんなで一つの目標に向かって、作業することが、すばらしいことだと思いましたね。このイベントは、心に一生残る思い出になったのではないのでしょうか。  
4 味付けを若い方にしてもらいました。合格です！



1 日下亮一さん 2 開拓班  
3 開拓班はいつも4、5人での作業だけれど、人数が多かったため気になっていたことが、一気に片付いた。すがすがしい気持ちです。  
4 温かった。五臓六腑がしめわたる。



1 津田麻知子さん 2 椎茸班  
3 寒い季節なので、風邪など引かぬように一週間前から体調の準備をしてきました。そのくらい楽しみにしていたのです。みんなの気持ち一つになれました。将来が楽しみです。  
4 大勢で食事をするという楽しみがあった。



1 橋田逸夫さん 2 椎茸班  
3 冬のイベントでよかった。  
4 餅汁とけんちん汁の違いがわからなかったのが、自分の味覚レベルをあげよう。



1 山田匡さん 2 開拓班  
3 密着にイベントの内容でおもしろいと思ったものは、椎茸の菌打ちです。若人と、年配のかたで、協力して一緒に作業する事が、イベントが盛り上がる秘訣かなのでは・・・  
4 心から、美味しかったです。



1 酒井和子さん 2 開拓班  
3 いつもは講義道だけれど、はじめて開拓班に参加してみました。体をたくさん動かしたので、くたげられたけど楽しかった。雪が降ってる人。雪の景色の中で、作業ができてよかった。枯れ木に、花が咲いたように美しい。  
4 温かいものを、みんなでいただく事が楽しい。そこから共有する気持ちが生まれ、心地よかったです。



1 岩澤昭子さん 2 開拓班  
3 みんなで体を動かした事がおもしろかった。  
4 体が芯まで温まりました。



1 堀田雄嗣さん 2 椎茸班  
3 作業が楽しい。みんなで一体になってやることで、少しずつだけ山の開拓ができていくことに感動しました。  
4 おいしく食べる事ができました。度々、やってほしいですね。

## ちょっとお勉強のコーナー その6 「～里山でみられるキノコたち～」

先日のイベントではみんなで椎茸の菌打ちを行いました。来年の冬のイベントでは育った椎茸を使って、また美味しいけんちん汁を頬張りたいたいですね。今回の「ちょっとお勉強のコーナー」では、里山で見られるキノコ類の一部を紹介します。普段見る市販のものと同じ名前でも里山では少し様子が違うものもあるようです。

### ホンシメジ (本湿地) キシメジ科



秋にアカマツ、コナラなどが湿る雑木林の地面に発生する。かさは径2～8cmで縁ははじめ内側に巻く。表面は淡灰色～暗灰色で成熟するにつれて色は淡くなる。ダイコクシメジまたは単にシメジとも呼ばれる。

### ヒラタケ (平茸) ヒラタケ科

夏～秋、広葉樹の倒木などに群生する。かさは5～15cmが、多数重なって生じる。やや粘性があり、灰色～ぬずみ色で、時に褐色や青色をおびる。柄はかさの中央からはずれたり側方についたりする。水平な所から発生するキノコは、かさが円形となり、いわゆるキノコ形になる。多くの市販の「○○シメジ」というのは、ビン栽培でヒラタケを上向きに発生させて、一見シメジ状につくったものである。



### シイタケ (椎茸) ヒラタケ科

野生のものは春と秋に広葉樹の枯れ木や切り株などに発生する。かさは径4～10cmで表面は茶褐色から黒褐色。周辺部に白い綿毛をつけるが、それはつぼみを覆っていた皮膚の名残である。



### エノキタケ (榎茸) キシメジ科



晩秋～冬～春、エノキ、クワ、カキ、ヤナギ、ポプラなどの広葉樹の切り株などに束生～群生する。かさは径2～8cm、表面は黄褐色で粘性が著しい。市販のエノキタケはイラストとは異なりかさは小さく、柄はひよろ長いものをよく目にするがそれは光を遮って栽培した、いわゆるモヤシキノコなのである。

参照:「きのこ図鑑」保育社出版

## サトヤマコラム

### 「714」

株式会社経営  
計画設計部 室長 山田 眞



ふれあいの森にいたオオカマ  
(2003/10/16 撮影:山田眞)

この数字が何をあらわすかわかりますでしょうか？これは、自然ふれあいの森の里山に対する、愛のバロメーターです。堺自然ふれあいの森委員会において、平成15年4月から平成16年1月までの10ヶ月間に里山保全活動に携わった延べ人数です。内訳は、月に1回の全体会議で464人、企画・調査・開拓班の各部会活動で250人。私は、特に、部会活動の250人の方に意義があると考えます。何故なら、この部会活動は全体会議以外の日に設定され、「活動日が少ない」と市民の側から自発的にかつ継続的に行われているからです。2年目を迎えた当委員会の今年最大の成果ではないでしょうか。

しかしながら、活動の中で子供たちの姿を見かけるのが少ないこと、教育に携わる方の参加が見られないこと、など幾つかの課題も見受けられます。里山の保全活動を行っていくためには、次世代を担う子供たちの意見も必要なのではないでしょうか。私たちのふれあいの森は、平成18年の3月に開園予定です。わずか2年しかありません。現在の委員会は、言わば自己学習の段階だと思えます。やらねばならないことは、まだまだ、たくさんあります。① 広く市民を受け入れるための準備(インタープリターの養成、展示検討など)、② 組織が自立していくための準備(役所からの自立、他団体との連携など)、③ 長期計画の立案、など。これからもみんなで頑張りましょう!!

### 問い合わせ先

堺自然ふれあいの森委員会 事務局  
堺市 公園整備課  
TEL:072-228-8174 FAX:072-228-1336

### ホームページアドレス

<http://sakaisatoyama.cool.ne.jp/>

### アクセス方法



東北高速鉄道  
泉ヶ丘駅下車

南側2番のりば  
鈴ヶ峯行き  
公園墓地北口下車  
(約20分)

info  
インフォメーション